

Paracane Times

March 2023



東海地方と関東地方を皮切りとし、ご要望があれば
その他の地方でも順次開催できればと考えております。
是非とも皆さまのお声がけをお待ちしております。

あなたの街にも?!
Paracane がやって来る！

- ご指定の場所に訪問し、使い方や仕様をレクチャーします -

「Paracane を使ってみたいけど歩行動画を撮影するのが大変」

「Paracane を正しく使えるか自信がない」

「開発者と直接話して納得してから使ってみたい」

そんな方々のお声をもとに、ご自宅などのご指定場所に開発チームのメンバーが赴き、直接使い方や仕様などをお伝えさせていただく新キャンペーンを開始しました。

応募方法

1.LINE登録



2.応募フォームの入力



応募フォームから事前アンケートとご訪問希望日をご入力

3.日程調整



5営業日以内に担当者より日程のご連絡

4.ご訪問



01

PTとモノづくり

-Paracane 開発におけるコンセプトメイキング-

連載
コラム

「杖って形変わってないよね」・・杖の課題とは？

今でこそ訪問看護ステーションや就労移行支援事業なども展開しておりますが、「リハビリ専門デイサービス」として創業した弊社。セラピストの専門性や強みを活かした新規事業の立ち上げを模索していた2018年頃、たまたま杖の専門店に立ち寄った社長の「杖ってさ、何十年も形が変わってないよね」のひと声によって、小さなプロジェクトの卵が生まれました。その少し前から同じく社長の思いつきでスマホアプリ開発に着手していた堺（Paracane 事業部リーダー）が、卵を孵らせるべく立ち上がります。

最初のコンセプトは「行動範囲を広げる杖」。移動の補助や身体への負担軽減のみでなく、自己帰属感が高まり持て出かけたくなる杖、それがきっかけとなって新しい出会いや居場所が生まれるような杖を作ることを目指していました。

プロトタイプ試用時の利用者さんの言葉

堺は、弊社のデザイナーと共に杖の機能面や対象などから課題を整理し、いくつかのモデルを考案した中で、"脳卒中後遺症に特化した杖"に絞って開発を進めることを比較的早い段階で決定しました。

杖の過用による手根管症候群を経験したデイサービスご利用者に、

意見をもらいながらプロトタイプを作成しいざ試用してもらったとき、「手がどうのこうのじゃなくて、この杖のいいところは持った瞬間に力みが減って自然と姿勢がよくなることだよ」と興奮気味に言われたそうです。当時はグリップ部分に着目していたため、しばらくこの感想の本質に気付かなかった、と後になって堺は話していました。

真の課題を発見

順調に思えた開発ですが、2020年に入り転換期を迎えます。「新しい杖を開発する」ことが目的化しており、そこに市場（需要）があるのか、その新しい杖で解決すべき課題は何なのかと立ち止まることになりました。そこで堺は、SNSを通して片麻痺の当事者の方々にアンケートへのご協力を呼びかけました。杖についての不満や課題だと思うことについて自由に挙げてください、といったものです。体裁が悪い、持ちたくないものというイメージを持っている方が多いことはわかったものの、それが本当の課題なのか釈然としない期間が続きました。闇落ちする寸前の堺を引き上げたのが、先ほどのご利用者の言葉でした。セラピストも当事者の方々も誰も気づいていなかった杖の真の課題、それは「杖に異常歩行を改善する機能がない」ことだったのです。脳卒中の後遺症は実に多岐にわたるにもかかわらず、歩行の特性に応じて杖を選択することができない、本当に解決すべき課題はそこにありますと堺が確信し、卵にヒビが入ったのは産み落とされてから約3年後のことでした。

（文：広報担当：足立知子）

次回は第2弾「コンセプトからのイメージ起こし」ご期待ください▶



発行元：株式会社 Welloop Paracane 事業部

〒498-0026 愛知県弥富市鯉浦町西前新田 43

お問い合わせ： 0567-55-8253

kokuwa@welloop.co.jp

セラピスト様のご登録も
多数いただいています



LINE 登録